

2016

3号

トトモニ

しおじり協働通信
平成29年1月

ご自由にお持ちください

トトモニ

3号
2016

しおじり協働通信トトモニ 平成28年度 第3号 (1月発行)

TAKE FREE



特集「あの人とともに」

NPOホットライン信州

野口裕子さん

心をつなぐのは温か(ホット)な電話(ライン)。
子どもが心豊かで居られる場所づくり！

●市民との架け橋に！しおじりまちづくり交流会 2016

●市民活動の無料相談受付中！

市民のみなさんへ お知らせ

市民との架け橋に！しおじりまちづくり交流会2016

昨年11月19日と20日、塩尻市内を中心に活躍するNPO・市民公益活動団体や社会貢献活動を展開している企業が参加して『しおじりまちづくり交流会2016』を開催しました。ブース出店やパネル展示があり、当日は多くの市民のみなさんにも来場頂き、市民活動を見つめ直す有意義な時間となりました。**2017年も開催を予定**しています。



※市民交流センター市民営提案事業

NPO・市民活動の無料相談を受けています！

「こんなことしたい、できたらいいな」を応援します。実現に向けた最初の一步を、一緒に考えましょう！NPO法人えんのわのメンバーが、みなさんのサポートをします！

えんぱーく2階のフリーコミュニティで、ご相談受付中！

相談
受付日

- 1月23日(月) / 10時～14時
- 2月3日(金) / 18時30分～20時30分
- 2月9日(木)、24日(金) / 10時～14時
- 3月6日(月)、21日(火) / 10時～14時

会 場：えんぱーく2階フリーコミュニティ



※市民交流センター市民営提案事業

市民公益活動に関する掲載記事やお知らせを募集しています！詳しくは、えんのわまで！

本誌に関する
お問合せ先

発行 塩尻市市民交流センター 交流支援課

〒399-0736 塩尻市大門一番町12-2 TEL:0263-53-3350(内線4221)
E-mail:collabo@city.shiojiri.lg.jp http://enpark.info/

編集 特定非営利活動法人 えんのわ

〒399-0736 塩尻市大門一番町12-2 TEL/FAX:0263-54-3320
E-mail:ennowa@hotmail.co.jp

まちチャレ情報

塩尻市では、協働のまちづくり基金を活用して、新たなまちづくりの担い手となる団体や活動を応援する補助金を交付しています。平成28年度まちづくりチャレンジ事業（発展型：ステップアップ）では、公開選考会を経て6事業が採択されています。

① ことばキャンプ長野

助成額
20万円

事業名 子どもたちの生きる力、コミュニケーション力育成事業

子どもたちがコミュニケーション力を育むことで、自尊他尊の人間関係を構築できる世代を育成する。

② 特定非営利活動法人 NPOホットライン信州

助成額
20万円

事業名 信州ふれあい食堂

子どもたちが安心感と自己肯定感を抱ける居場所づくり。

③ ちび商人(あきんど)

助成額
20万円

事業名 地元産の旬の「美味しい」を地元の皆さんに届けるプチマルシェ「ちび商人」

地元で取れた旬の野菜の消費拡大を図りながら、人と人とのつながりを創出する。

④ さつき会

助成額
20万円

事業名 勝弦(かつづる)地域魅力アップ事業

勝弦地域の魅力を高め、観光資源の整備を行うことで観光客の回遊、誘致につなげる。

⑤ 塩尻「学び」マネジメント

助成額
20万円

事業名 塩尻「学び」マネジメント

子どもたちの主体的・協働的な「学び」を実践し、人間関係づくりと学力向上につなげる。

⑥ Go Global (ゴー グローカル)

助成額
20万円

事業名 グローカル留学事業

市民の国際力の向上を図り、グローバル化に対応できる人材を育てる。



▲フードバンクに寄付で集まった食品や衣類



▲子ども食堂の様子

NPOホットライン信州 野口裕子さん

心をつなぐのは温か（ホット）な電話（ライン）。子どもが心豊かで居られる場所づくり！

特別
インタビュー
VOL.3



長野県内の無料電話相談活動からスタートした特定非営利活動法人「NPOホットライン信州」は、現在では全国からの電話相談にも対応し、4年間で約1万9千件の相談に応えている。被災地への支援物資の提供や生活困窮者への緊急支援をするフードバンク、子どもたちの居場所づくりとして始めた「信州こども食堂」等の活動も、電話で寄せられた相談事の中から派生し、団体として取り組んでいる。

野口裕子さんは、同団体の中南信事業本部長を務める。もともとシルバー人材センター業務や産業カウンセラーとして様々なトラブル、困りごとの相談にのり、人の話を聞く仕事に携わっていた。平成27年10月から同団体のスタッフとして働き始め、電話相談員の傍ら昨年の塩尻事務所の本格稼働と共に、協働のまちづくり基金の助成金制度を活用して塩尻で初めて「信州ふれあい食堂」を開いた。これは昨今メディアで注目を集める「こども食堂」の一端で、その塩尻版である。同団体は平成28年1月9日に「信州こども食堂」を始め、県内各地で80回以上、大人・子ども合わせて3千人を超える参加があった。さらに、熊本地震の被災地でも地元のボランティアと共に「信州こども食堂 in 熊本」を開催している。

厚生労働省によると、現在の日本において子どもの6人に1人が家庭が経済的な貧困状態にあるとされる。しかし野口さんは「居場所が見つからない子どもたちが安心感や自己肯定感を抱ける場所にしたい」と、一様に子どもの貧困対策としての取り組みではないと話す。「信州ふれあい食堂」は誰もが参加でき、共に料理を作ったり、食事や談笑を楽しんだりして過ごすことを目的としている。「子ども達の心が豊かである地域づくりをしたい」と話す野口さんは、今後、大勢が苦手な子どもでも気兼ねなく食事ができる環境をつくりたいという。「その子ひとりの居場所が良いんです。たくさんの人と関わるのが苦手でも、1対1なら話せます。話をしながら温かいものが食べられる場所をつくりたいですね」。

誰かが親身になって話を聞いてくれる。誰かと一緒に食事ができる。当たり前なのに思いがちだが、本当の豊かさは、そんなところにあるのかもしれない。